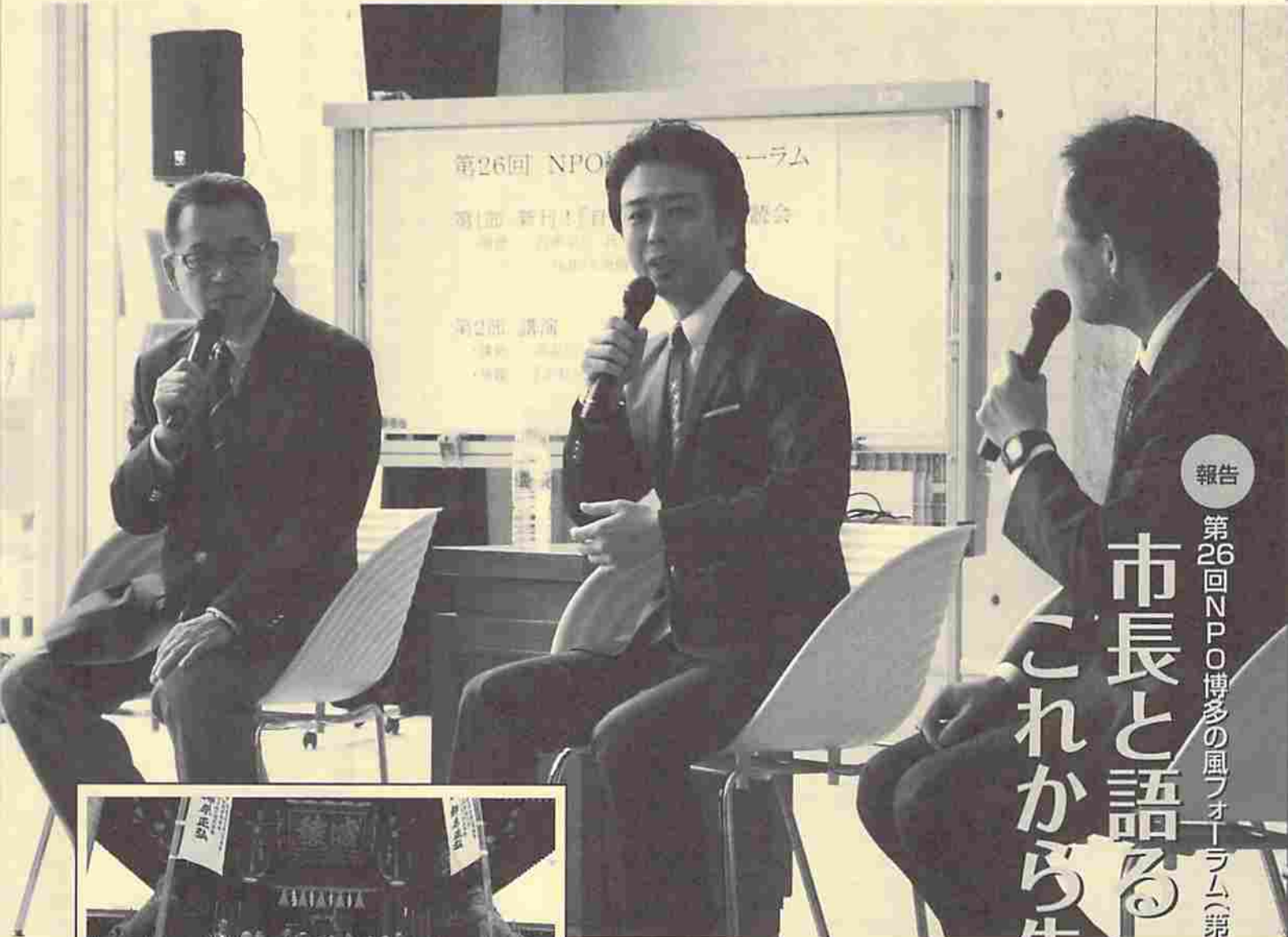


風

F u - Z i n

第28号

平成23年11月発行



報告

第26回NPO博多の風フォーラム(第2部)

市長と語る

これから先の福岡市



報告

第10回 博多のおいしゃんと歩こう
追い山笠コース探訪

告知

第11回 祭童子集まれ
楽文コンテスト表彰式

市長と語る「これから先の福岡市

去る平成23年4月16日、第26回NPO博多の風フォーラムが福岡市立博多小学校「表現の舞台」にて行われました。第一部では、大庭宗一理事長の著書「自分がんばれ。3」から5つの項目を抜粋して進行役の沢田幸二アナウンサーにより朗読していただき、併せてその内容について大庭理事長から解説していただきました。

続いて第二部では元KBCアナウンサーであり、現在は福岡市長として活躍されている高島宗一郎さんにご登壇いただき、大庭理事長、そして元会社の上司でもあった沢田アナウンサーとの3人により対談形式でお話いただきました。

■「市長」…想像以上に激務な毎日！

(沢田) 高島市長、市長になって約半年になりますか？

(高島) 正直言うとは私はまだ「振り返る」ということをしていないですね。というか、振り返る暇が無いんですよ。次から次と新しい案件が来るので、その瞬間に頭に入れて、分からないところを聞いて理解しておかないといけない。そんな毎日を繰り返している中で、「これまでどれくらい経ったかなとか、どんな感じで選挙をしたかな」とか、思い出す暇も無い…というのが実態です。

(沢田) ある程度予想はできたでしょうけど、それ以上に？

(高島) 想像をはるかに超えてました。

(大庭) スケジュールは自分で立てられるものなんですか？

(高島) 毎日のスケジュールというのは、「これから10分のレクチャー、次は15分の面談」という形で次から次と決まっ

ていて、震災に対する話、義援金を持って来たという方のお迎え、何々の施設がオープンするというところで、その説明を受けたいというところで福岡に関することとあらゆる案件が入ってくるわけです。

(大庭) 市長は1人やけど、来る人にとつては「私だけ」っていうことだからですね。大きな案件はそれはそれできちり進めながら、いろんなことを前向きにやっていくしかないですね！

■国や県との連携、全ては市民のために

(大庭) 統一地方選挙が終わった、小川新知事が誕生しました。特に福岡の場合、福岡市と福岡県の連携が、いい意味で上手いききそうな気がするんですが？

(高島) 福岡市は政令指定都市ですから、他県でいうところの県のレベルの権限を持っているんです。しかし、那珂川、桶井川といった川は福岡市内

を流れる川ではあるものの、これについては県の管轄なので、市は何もタッチできないんですよ。また大濠公園と舞鶴公園はピタリくっついているので、一体として開発をすれば皇居の周りにも匹敵するくらいの素晴らしいランニングコースもできると思います。大濠公園は県の管轄ですから一体となった整備というのが出来ないんです。

私も福岡市に住んでいる者として、何処がやろうが市民にとって良くなるように協力していくべきものだと思います。お互いが垣根を低くしていかなければならない。そのためには「人間の交流」というのがまず一番だと思います。それぞれトップである知事と市長がきちんとコミュニケーションをとって、そういうものがだんだん伝播していく…ということになればいいと思っています。

■「子ども病院問題」にみる、議論のプロセスと課題を共有することの大切さ

(大庭) やはり答えがでるまでには時間がかかりますか？

(高島) 時間をかけちゃいかんのですよ。

(大庭) 私もそう思います。(高島) 前は市の内部だけの調査委員会で調査した結果、何が話されたかがよく分からなかったんです。分厚い報告書を読めと言われたってそんなの読む気もしないじゃないですか。そういう部分をオープンにしましょうということ、今回の検証委員会に至ったわけです。会議している様子は全部傍聴も自由ですし、インターネット上で誰でも見ることができ、後になっても全てを見返すことができる。これだけ可視化して透明化して物事を決めていけば、すでに10年も経ってしまっているこの問題について、正直もつというんな選択肢があったんだらうと思うんです。



高島宗一郎 (たかしま そういちろう)
1974年11月1日生まれ 37歳 (A型)
97年にKBC九州朝日放送入社。情報番組「アサデス」環境番組「水と緑の物語」などのキャスターを務める。2010年12月福岡市長就任 (第35代) 戦後歴代の福岡市長のなかで最年少当選 (36歳) を果たした。

■「自分の想い」…浸透させるのは難しい！

(高島) 実は福岡市で「動画チャンネル」を作ったんですよ。やっぱり、自分の言葉で伝えるのが一番分かりやすい

ほとんど時間が経って老朽化が進むにつれて、よりスピード感を持って場所を決めなければならぬ。追い詰められていくって選択肢が狭まるのが問題です。これまでの行政の責任が大きいと思いますし、今後はこういった問題を起すことはならないと思いたいです。オープンに進めていきたいと思えます。

課題を共有する事が一番だと思えますよ。「抱え込まない」、何が問題で今悩んでいるのかを全部オープンにして、それで知恵はみんな出せばいいじゃないか」というのが私の率直な気持ちです。そのためには今何が問題になっているのかという事を噛み砕いてお伝えする事が一番大事な事かと思っています。

と思うんです。テレビの時のノウハウでいくと、文字は出来るだけフリップ一枚にシンプルにまとめてそこだけをクローズアップする。図や絵とかで分かる場合はできるだけビジュアル化する。そうしないとなかなか浸透して理解してもらえないのは難しいんですよ。

これまで沢田先輩に鍛えられた(笑)ノウハウを活かしてですね、これまでの問題は何だったのか、今どこがポイントで議論されているのかというのを分かりやすくしていくという作業をしていきたくて考えています。



(高島) 「行政の素人」というところをもう少し丁寧に言う。「素人の眼を持った素人」になりたいたいですよ。素人が素人の言い方をしても分かんないんですよ。今、いろんな問題に関してレクチャーを受けていますが、分からないんですよ。しかもそれを市政だよりに掲載してそれだけで皆さんに理解してもらえるのかな?と。

(大庭) いやあく市政だよなんて、市民の大半の人が読んでいないのでは?
(高島) たぶん年齢層にもよると思うんですよ。例えばお子さんを持つていらっしゃる方だったら予防接種とか載ってるんで、チャネルを絞る訳ではなくて、テレビだったり市政だよりやスマートフォンなど、いろんなチャネルでの発信をできるだけ分かりやすくやっていく...
(沢田) そういった「高島イズム」は職員の方にほどの程度浸透していますか?
(高島) 難しいなあ、(沢田) はっきり言って温度差みたいのものあるんじゃないかなあ...
(高島) でもこれってアナウンサーでも後輩に教えることって難しいじゃないですか。繰り返し繰り返し繰り返していき、一朝一夕でできることではないと思うんです。そういう意味では

私のすぐ近くについている広報伝の皆さんについていうのは、ずいぶん考え方が分かってきてきている。やっぱり伝わらなければ意味が無し、「言えれば相手に伝わっている」というのは大間違い。そういう部分での「イズム」についていうのは理解していただいていると思います。
ただ、市の職員が1万人いる中で結局伝言ゲームになってしまっている。例えば、「世の中の多くの人が自ら情報を取りに行くようになっていくのだから、その流れよりも少し先を行っていかない」と市民からの要求に答えることができないようになりますよ」という話を主に局長にするんですけど、それを伝える上の人々の態度が悪いと「使ったこと無いけど、情報収集のためにスマートフォンを持ってと言われた」というふうに伝わってしまっている。若干の歯がゆい思いもあつたり。でも仲間は増えていきますので展望は明るいと思いますよ!

■「市長」としてこれからが本番!

(沢田) 市長、ホントにアイデアがいろいろあつて...
(高島) ありすぎてホントにもう! 役所の中で受け皿が欲しいんですよ! 市長の仕事は確かに重責ですが、ものすごく遣り甲斐があるし、楽しんでます! 今は、自分が民放にいた時に「こうすればいいのに」と番組で言っていたことを、とにかくどんどん実際に行政の中で取り入れて動かしたい一心です。自分はキャリアが無いのに焦ってもしようがないわけで、できることを全力で一生懸命するというところで今、本当に充実して頑張っています!

元アナウンサーだけあつて、語り口は明瞭そのもの! 開始直後から、会場は一気に高島市長のお話しに引き込まれていきました。
36歳という若さで市長に就任され、以来その重責を担いつつ奮闘しておられる毎日。その源は、福岡が好き! もっと良くしていきたい! という強い「想い」と、その想いを一人でも多くの人に分かりやすく正確に伝えていきたいという「熱意」でした。
「問題・課題は抱え込まず、オープンにして共有する。それに対してみんなで知恵を出し合えばいい。」とおっしゃられた高島市長。福岡市が抱える課題と一人人が抱える課題とでは程度の差こそありますが、生きていく中でいろいろある場面でのこのことが当てはまるのかもしれない。
もっと市政に興味や関心を持っていくことで市長を応援したい! 「同世代」で頑張っておられる市長を見て、そう強く感じた今回のフォーラムでした。
(田中 大士)

告知

第27回 NPO博多の風フォーラム開催のご案内

■開催日時:平成23年11月19日(土) 開場:13:30/開演:14:00 ■開催場所:博多小学校「表現の舞台」

講演 「明日のために言いたか放題」

講師 大庭宗一(NPO博多の風 理事長) 沢田幸二(九州朝日放送アナウンサー)

※当日は午前11時より同会場にて、「第11回 祭り童子集まれ案文コンテスト」の優秀作品表彰式を開催します。

第10回 博多のおいしゃんと歩こう



追い山笠コース探訪

平成23年6月5日(日)に今年で10回目になる「追い山笠コース探訪」が開催されました。今年も、新聞やラジオ等で幅広く参加者を呼びかけ、抽選で選ばれた約二百名の方が参加しました。様々な国からの留学生もグループで参加され、参加者を10のグループにわけて9時30分から3分おきに出発。当番法被に身を包んだ博多の風の仲間たちが「語り部」として案内しました。心配された雨も上がり、約2時間をかけて博多の町を歩きました。ここでは当日のアンケートに書いていただいた参加者の声をご紹介します。

1 冷泉公園(集合)



スタッフのみなさんの
笑顔が素敵です。

楽しいおはなしを
聞きながら
楽しい時間が
すごせました。

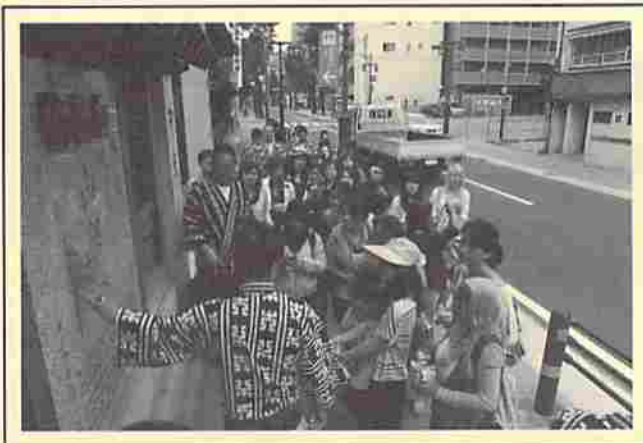
歩いたことが
なかったのが
新発見です。

とても楽しく、
知っているつもりが
新しい発見でした。

普段見ない町を見れて
とても楽しい時間を
過ごすことができました。
満足。

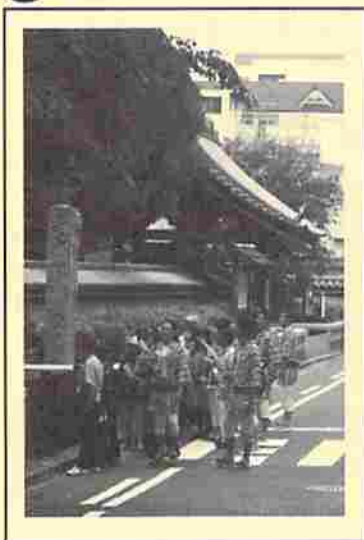
面白かったです。
知って見ると、
知らずに見るとでは
大違いです。

2 山留め



伝統行事というより、
今、活きた活動をされている
様子がうれしいですね。

3 聖福寺



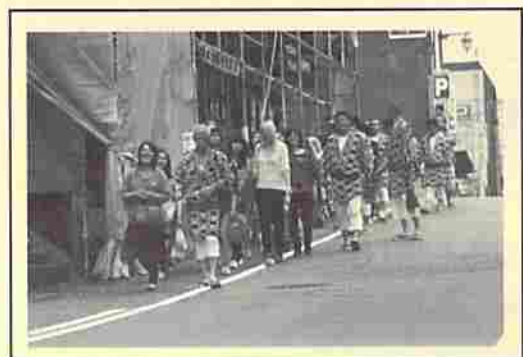
伝統行事を
維持することの
大変さが十分
認識できました。

博多の町を
山笠の目線で歩くと
いつもと違った風景に
見えました。
コースが分かり、
山笠を見る楽しさが
増えた。

自分では調べることの
出来ないことが開けて
よかったです。

コースをめぐるって、
熱き心、伝統を守る心とかに
触れられた気がしました。

4 東町筋





楽しい説明で、
博多の町を
再発見できました。

親子で
博多の町を歩いて
良かったです。

本番を見学したい。

最高に良かったです。
来年も参加したいです。

山笠の方達の温かい対応に
博多にいる人間としての
誇りを感じました。

6 15日廻り止め

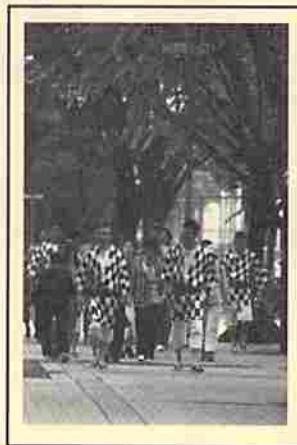


近所は通っていましたが
意外と知らないことが
多いことに気付きました。

実際にコースをゆつくりと
見てまわると、細かい
ところまで分かるので、
大変たのしかったです。

少しきつかったけど
有意義に過ごせました。
博多の歴史も
分かってよかったです。

5 大博通り

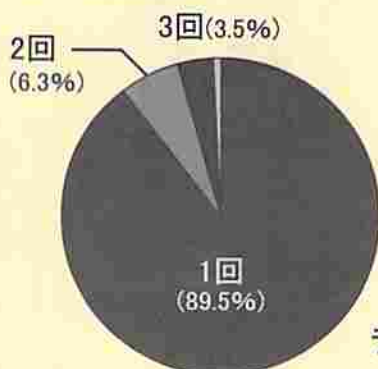


長い距離を
走っているんだなあ
とびっくりしました。

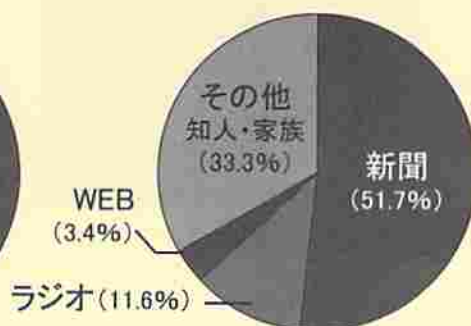
追い山笠コース探訪アンケート結果より (集計)

今回のコース探訪では、終了後に任意でアンケートを実施させていただきました。感想としては満足という回答が多い結果となりましたが、運営についてのご意見などもいただきましたので、今後の運営に活かしていきたいと思っております。

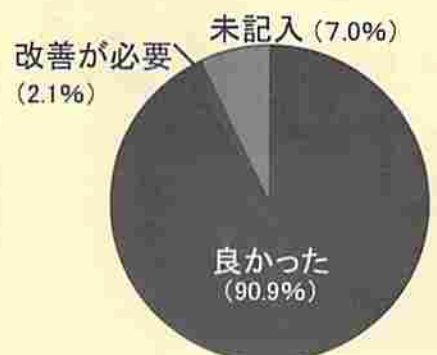
Q:参加回数は?



Q:今回のコース探訪を
知ったきっかけは?



Q:参加してみた感想は?



大庭宗一理事長が福岡市の

「アイランドシティ・未来フォーラム」に

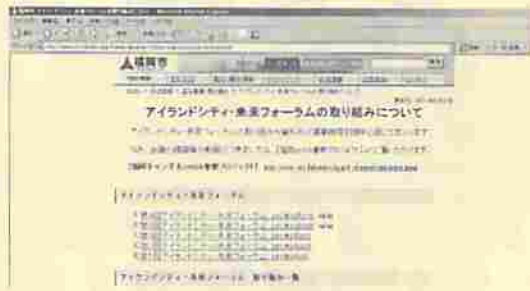
委員として参画

アイランドシティ整備事業について、多くの皆さんと共に考える機会を高め、事業への理解や共感を得ながらアイランドシティでの豊かな暮らしを支える「みなとづくり」「まちづくり」を着実に推進するため、自治会・市民・行政・産業界・学識経験者など16名の委員でフォーラム(委員会)が開催されています。期間は7月から12月まで6回に分けて実施され、

検討内容や議事録なども、福岡市のWEBサイトでも公開されています。大庭理事長は、今住んでいる、また将来的にここに生活される1万8千人のことを考えたら、安心安全とか、そのために何をしなければいけないか、できることから考えていかなければいけない。」など、まちづくりの中で必要なことについての提言を行っています。

11月21日～24日
RKBラジオ
「大庭宗一の博多熱風塾」
森委員(アイランドタワー自治会会長)がゲスト出演します。(予定)
理事長とFIC(福岡アイランドシティ)のこれからについて語ります。

◆福岡市のWEBサイト
資料や議事録も公開されています



◆Fukuoka channel
フォーラムの様も動画で公開されています。



大庭宗一の活カエッセイ

シリーズ第3弾

「自分頑張れ。3」

人気シリーズの最新刊が、平成23年3月23日に発売されました。「人間本気になれば、出来ることは沢山ある。」と頑張る力がわいてくる熱いメッセージがいっぱい詰まったエッセイ集です。



定価600円(税込)

人気シリーズ「明日への一言。」も好評発売中です

◆「明日への一言。」①～⑥



◆「自分頑張れ。」①～②



告知

第11回 祭童子あつまれ 楽文コンテスト表彰式

平成23年11月19日(土)開催(予定)

開場10時30分 開演11時

会場 博多小学校 表現の舞台

今回で11回目となる楽文コンテストですが、7月から9月の期間に、福岡市内外の小中学生から1080通もの応募が集まりました。1次選考から3次選考を経て、作品を選ばせていただきました。大人でもはつとさせられる子供ならではの視点で、見たこと、感じたことを生き活きと表現したのもや、初めて参加した祭の話など、男女それぞれが祭の楽しさについて書いた作品です。優秀作品の表彰と、各賞代表の方の作品発表を予定しています。ご期待ください。



第11回の入賞者の皆さん (平成22年10月)

NPO博多の風 賛助会員募集のお知らせ

我々「NPO博多の風」の主旨をご理解いただき、活動に賛同いただける方を広く募集しています。お知り合いの方をご紹介ください。

お問い合わせ

「NPO博多の風」広報企画(担当:山口)

E-mail info@hakatanokaze.jp

FAX 092-263-7188

NPO博多の風の最新情報は
ホームページに掲載中です。



URL <http://hakatanokaze.jp>

がんばろう日本

NPO博多の風では、皆様のご協力のもと、東日本大震災の被災地で活動をされている支援者の方々へ心の支えとなることを願い、博多の風出版の「自分がんばれ。」「明日への一言。」シリーズを合計100冊送ることになりました。



編集後記

私自身も、市政について知る術としては「結果のみ」「市政だより」で」というイメージを持っていました。改めて福岡市のホームページを見てみると様々な情報が掲載されており、市長の動きや市民の関心が高い重要プロジェクトなどの内容も動画 (Fukuoka channel) で公開されており、その充実ぶりに驚きました。「子ども病院の移転の決め手」では、市長みずから「スピードとスペース」という事を分かりやすく説明されており、それに至った意見交換会の模様も公開されていました。

アイランドシティのまちづくりについても、住民の方が前向きに取り組んでいる様子を公開して共有することによって、それを見た他の地区のまちづくりに関する活動に對しても、良い影響に繋がるのではと感じました。情報を受け取る側の環境の問題もあるかとは思いますが、今後も継続していろいろな形で情報を公開をするという事で新たな気づきを産み、市民参加型の市政への機運が盛り上がりつつあるのではないかと思います。

(中山 肇)

近年の活動

※設立からの詳細はホームページをご覧ください

平成22年

- 4月 第24回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師：大庭宗一氏 (NPO博多の風理事長)
- 5月 第17回 はかたの町クワリーン作戦 (雨天中止)
- 6月 第9回 追山コーヌ探訪 開催
- 第10回 祭童子集まれ楽文コンテスト 実施
- 10月 第18回 はかたの町クワリーン作戦 実施
- 第10回 祭童子集まれ楽文コンテスト表彰式 開催
- 第25回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師：杉浦孝昭氏 (映画評論家)

平成23年

- 4月 第26回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師：高島宗一郎氏 (福岡市長)
- 5月 第19回 はかたの町クワリーン作戦 (雨天中止)
- 6月 第10回 追山コーヌ探訪 開催
- 第11回 祭童子集まれ楽文コンテスト 実施
- 10月 第20回 はかたの町クワリーン作戦 (雨天中止)

NPO博多の風の歩み

■設立

平成10年 9月
任意団体「博多の風」設立 代表：大庭宗一

■NPO登記

平成12年 6月
『NPO博多の風』として登記 理事長：大庭宗一

NPO博多の風事業概要

■啓発事業

- ・博多の風フォーラム開催
- ・広報紙・HP発行
- ・毎日新聞世論フォーラム開催
- ・作文コンクール (楽文コンテスト) 実施

■地域環境向上事業

- ・博多の町親交
(清掃活動クワリーン作戦・冷泉小学校跡地提言・山笠文化継承)

■活性化事業

- ・書籍出版
- ・博多祇園山笠の振興
- ・追山コーヌ探訪開催

■協力事業

- ・各市民団体との情報交換及び支援

NPO特定非営利活動法人

博多の風

〒812-0027

福岡市博多区下川端町8-16-302

FAX 092-263-7188

E-Mail info@hakatanoakaze.jp

URL <http://hakatanoakaze.jp>